

圧倒的なコストメリットを提供する

「ライフタイムコスト」という考え方

ただ単にコストといった場合、製品を購入した際の初期費用を指すのが一般的です。そのために購入価格の高低が重視されます。もちろん製品の性質や品質に関わることで当然のことです。しかし、最近は初期費用に「真のコスト」を加えたライフタイムコストこそ重視すべきだという考え方が主流になりつつあります。

What's Lifetime cost?
インフォグラフィックでチェック



イニシャルコストではなく「ライフタイムコスト」

製品を購入される時、製品代や設置代だけをコスト(イニシャルコスト)としてお考えではないでしょうか。ところが製品にかかる費用はそれだけではなく、稼働させている間にメンテナンスや修理、部品の取り替えなど様々な費用が生じます。もちろんエネルギー代もコストに含めなければなりません。製品の採用、購入に際してはこうした導入から廃棄に至るまでの「総生涯コスト=ライフタイムコスト」にこそ、ご注目していただきたいと山本製作所は考えています。

初期費用も「ライフタイムコスト」も削減。

「ライフタイムコスト」とは、製品の購入から設置、運用、保守、廃棄に至るまでの生涯コストの合計です。このコストを抑えるためには、まず故障が少なく耐久性に優れた製品を提供すること、そして長期間にわたり適正な価格で部品を提供し修理が可能な体制を確立することが不可欠の条件になります。山本製作所は「ライフタイムコスト」という言葉が一般化する前からこの2つに取り組んできました。

内製率97%が裏付ける

「ライフタイムコスト」パフォーマンスの高さ

「丈夫で故障の少ない製品づくり」。そして「部品の長期間、適正価格での提供」。これは山本製作所の創業以来、変わることはない思想です。それを具現化するために機械の構成部品(購入品を除く)



の内製化に取り組み、現在では世界でも類のない内製率97%以上を実現。グローバル市場でも高く評価されています。初期購入価格の点でも、品質管理の点でも、そしてメンテナンス/サービスの点でも、すべてにおいて私たちがコストパフォーマンスの高さを誇る事ができるのはこの内製率の高さゆえです。

長く大切に使用していただくことが、 私たちの喜びです。

次々と新しいモデルに買い換えていただいたほうが利益になる。そういう考え方もあります。しかし、私たちはそれには与しません。「長く、安く、良い製品を使っていただき、お客様に喜んでいただく」。それでこそ、次も山本製品を選んでいただけると私たちは考えています。すべてのものを長く使うことが未来への投資。洗濯機の長寿命化が地球への優しい選択です。ずっと前から私たちは持続可能という土台に立っています。

ライフタイムコスト



購入費用

+



設置費用

+



運用費用

+



保守費用

+



廃棄費用

「ライフタイムコスト」とは：機器の購入、設置、運用、保守、廃棄にかかる生涯コストの合計です。

二酸化炭素削減、豊かな海づくりに協力。 ブルーカーボン・オフセットにいち早く参加。

地球温暖化が言われて久しくなります。さまざまな努力がなされているにもかかわらず、一向にとどまる気配はありません。ここ数年の酷暑はもはや異常気象ではなく、これが常態と地球が言ってるかのようです。加速する温暖化は、危機の到来の加速を告げています。

温室効果ガスの濃度がますます上昇。 CO₂削減は緊急。枢要の課題。

地球を取り巻く大気には、太陽光によって暖められた地表から宇宙空間に向かって放射される赤外線を吸収し、それらを地表に向かって再放射する気体(二酸化炭素、メタン、フロン類など)が含まれています。温室効果ガスと呼ばれるこうした気体のおかげで地球平均気温は生物に適した温暖な状態に保たれてきました。しかし、温室効果ガスの大気中温度が急激に増加。なかでも二酸化炭素(CO₂)の増加が地球温暖化に大きな影響を及ぼしているのです。温暖化の原因の6割を占めるCO₂の削減は、世界的・人類的課題といえるでしょう。

どんどん消えていく干潟、藻場。 その役割の大切さを見直す。

河川や潮の満ち引きによって砂泥地を干潟、内湾や入江の静かな砂泥地・岩礁域の海藻が茂る場所を藻場と言います。いずれも多種多様な生き物が生息し、有機物を分解、海水を浄化したり、CO₂を吸収する働きをすることで知られています。ところがこの干潟や藻場がどんどん減少、瀬戸内海岸でもコンピナート建設や護岸工事で急激に姿を消し、漁業にも深刻な影響を与えています。海の生き物を育み、CO₂削減の役割も果たす干潟、藻場の大切さが再認識され、干潟の保全・再生、藻場の保護・増加への取り組みが全国各地で行われています。



▲第1回尾道市Jブルークレジット意見交換会の様子

尾道市、浦島漁協が取り組む ブルーカーボン・オフセット事業

尾道市と浦島漁協(同市浦崎町)では、地球温暖化防止に向けて干潟や藻場で二酸化炭素を吸収し削減。それをクレジット(排出権)化し、企業や団体に販売するブルーカーボン・オフセット事業に取り組んでいます。



このほどその第一回公募販売が行われ市内外の16社が購入。弊社もいち早く参加・購入し、ブルーカーボン・オフセット事業の推進に協力しています。

「干潟に藻場を増やすアマモの種を植え、温暖化の防止とともに、魚介類がたくさん獲れる豊かな海を取り戻す」。その思いは、持続可能な社会を目指す山本製作所の思いと軌を一にしています。

